

単元「小数のかけ算とわり算(1)」の例

小数のかけ算とわり算(1) 指導計画 <全14時間>

時 間	指導のねらい		
つかむ	1時間目 (小数)×(整数)の意味を理解し、純小数に1位数をかける簡単なかけ算ができる。		
深 め る	2時間目 (小数)×(1位数)の筆算形式を理解し、その計算ができる。		
	3時間目 (小数)×(2位数)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。		
	4時間目 本単元の学習課題をつかみ、意欲的に解決しようとする。 (小数)÷(整数)の意味を理解し、その計算ができる。		
	5時間目 (整数・小数)÷(整数)で、商が小数になる計算の仕方を理解して、その計算ができる。		
	6時間目 小数のわり算の筆算を、整数のわり算の筆算をもとにして考えることができる。 (小数)÷(1位数)の筆算の仕方を理解し、計算ができる。		
	7時間目 (小数)÷(2位数)の筆算の仕方を理解し、その計算ができる。		
	8時間目 (整数・小数)÷(1、2位数)で、わり進む場合の筆算の仕方を理解する。		
	9時間目 (整数・小数)÷(1、2位数)で、商を適当なくらいまでの概数で表す筆算の仕方を理解する。		
	10時間目 小数の乗除演算を自ら決定しながら、問題を解くことができる。 わり算の性質を利用して、簡単なわり算にして計算することを考える。		
11時間目 <確かめプリントとオリエンテーション>			
生 か す	習熟度別指導	12時間目	しっかり理解コース 小数の十進数としての構成、および小数の相対的な大きさについて理解を深めることができる。(知)
		じっくり練習コース (小数)÷(1位数)の筆算ができる。(表)	
		とことん理解コース (整数・小数)÷(1・2位数)で、わり進む場合の筆算の仕方がわかる。(知)	
		チャレンジコース 少し難易度の高い小数の文章問題をすすんで解くことができ、また自分でも作ることができる。(関)	
		13時間目	しっかり理解コース 小数を整数でわる計算の意味及びその計算の仕方について復習し、理解を深めることができる。(知)
		じっくり練習コース (小数)÷(2位数)の筆算ができる。(表)	
とことん理解コース (整数・小数)÷(1・2位数)で商を適当な位までの概数で表す筆算の仕方がわかる。(知)			
チャレンジコース 友達の作った小数の文章問題をすすんで解くことができる。小数の計算式から問題を意欲的に考えることができる。(関)			
14時間目	確認テスト		

- ・ 習熟度別少人数指導では、補充的な学習を行う3コースについて、わり算を不得手とする子どもの実態をふまえ、内容は小数のわり算を中心に扱った。
- ・ 各コースそれぞれの目当て・内容について説明し、それまでの自分の学習や確かめ問題のできぐあいを振り返らせて、自分なりの目当てを持たせた上でコース選択するようにした。

評価補助簿
5年算数科単元名(小数のかけ算・わり算)全14時間

観点	関・意・態	考え方				表現・処理		
		1	4	14	3	6		
評価規準	教科書の図やわり算のかけ算や問題ができて	数の乗法に帰着できる。	とに帰着できる。	数のかけ算の仕方を理解し、計算ができる。	がとに帰着できる。	法に帰着できる。	算のかけ算の仕方を理解し、計算ができる。	算のかけ算の仕方を理解し、計算ができる。
評価方法	学習活動ワークシート	学習活動 ノート	学習活動 ノート	確認テスト	学習活動プリント	学習活動プリント		
十分できると判断できる状況	積極的に問題を解ける。	法に帰着できる。	法に帰着できる。	法に帰着できる。	法に帰着できる。	法に帰着できる。		
児童名								
1	A	A	B	A	A	A	A	A
2	B	B	A	A	B	A	B	A
3	B	B	B	B	A	B	B	Ⓒ

・ 指導者同士の評価の客観性を保ち、より評価しやすくするため、毎時間の終わりにミニ確かめテストをし、結果を評価補助簿に記録していった。Cと判断した子どもには事後指導をし、おおむね満足できる状況になった時にはCにした。評価補助簿を見ながら本時の指導を振り返ると共に、どの子のどこにつまずきがあるのかを意識しながら進めた。

「小数のかけ算とわり算(1)」における誤答者と誤答問題

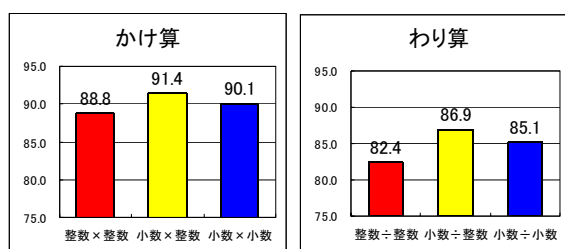
	⑩	⑨	③	⑧	⑦	④	②	⑥	⑤	①
	$68 \overline{)49.1}$	$7 \overline{)18}$	5.4×2.1	$15 \overline{)3.9}$	$27 \overline{)91.6}$	7.5×6.0	12.7×4	$8 \overline{)47.2}$	$3 \overline{)5.1}$	2.6×3
	商を上から1けたの概数で表す	商を十分の一の位までの概数で表す								
1	△	△	△	△	△	△				
2	△	△	△	△	△	△				
3	△	△	△	△	△				△	
4	△	△		△	△			△	△	

- ・誤答が多かった問題 については一斉に、他の問題については個々に事後指導し習熟を図った。
- ・誤答が多かった ~ 番の子どもたちへの指導を少しでも充実させられるよう、次単元「小数のかけ算とわり算(2)」全19時間のうち、「小数のわり算」(7時間)の学習で学級内習熟度別指導を計画した。

(3) 研究の成果と課題

- ・子どもが小数のかけ算やわり算に自信を持ち、意欲的に学習しようとする姿がみられた。
- ・レディネステスト(整数×整数)(整数÷整数)と単元の確認テスト(小数×整数、小数×小数)(小数÷整数、小数÷小数)を比較すると、学年全体の計算力が向上してきた。
- ・教師間における教材研究や協力体制が充実してきた。
- ・評価規準や評価方法についてさらに検討を重ね、積み上げていく必要がある。

「整数のレディネステストと小数のテスト結果の比較」



(4) 研究成果の普及方法

- ・西牟婁地区学力向上推進協議会において、本校の取組を発表し協議する。
(平成15年7月29日) (平成15年10月20日)
- ・平成15年度県教育課程研究協議会において、本校の取組を発表し、その成果を西牟婁地方の学校に普及する。(平成15年8月22日)
- ・学力向上フロンティアスクール研究発表会において、本校の取組を発表するとともに、資料(漢字・計算習熟プリント集、素読・朗読・暗唱集)を配布し、その成果を県下全域の学校に普及する。(平成15年12月4日)
- ・平成15年度西牟婁地方学力向上フロンティアスクール研修会において、本校の取組を発表するとともに、指導講話を受け研修する。(平成15年2月2日)

【新規校・継続校】 15年度からの新規校 ✓14年度からの新規校
 【学校規模】 6学級以下 7~12学級 13~18学級 ✓19~24学級 25学級以上
 【指導体制】 ✓少人数指導 ✓T.Tによる指導 ✓一部教科担任制 その他
 【研究教科】 ✓国語 ✓社会 ✓算数 ✓理科 ✓生活 音楽 図画工作 家庭 体育 その他
 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 ✓有 無

【特色ある取組事例としての紹介したいポイント】

本校ではレディネステストをはじめ算数計算や漢字の書き取りについての問題を作成し、子どもの実態把握に努めている。また、評価の客観性を高めるために教職員が協議を重ね、共通理解を図る体制が確立している。そのことが評価規準の研究にも資することになっている。